

熊本地震発生から2年半後の被災文化財・埋蔵文化財調査の現状

2018年10月20日

平成28年熊本地震対策特別委員会 杉井 健（熊本大学）



写真1 熊本城大天守・小天守の現状(20181007)



写真2 戌亥櫓と崩落したままの石垣(20181007)



写真3 並べられた石垣石材(20181007)



写真4 熊本城復興見学ルート(20181007)



写真5 倒壊した阿蘇神社の楼門(20160506)

はじめに

平成28年熊本地震の前震が発生したのは2016年4月14日、本震はその2日後の16日でした。それから2年半の月日が流れました。その間にも、鳥取県中部地震（2016年10月21日）や島根県西部地震（2018年4月9日）、大阪府北部地震（2018年6月18日）、北海道胆振東部地震（2018年9月6日）、あるいは九州北部豪雨（2017年7月5・6日）や西日本豪雨（2018年7月6～8日）、また平成30年台風第21号（2018年9月6日）などによって、日本列島の各地に甚大な人的・物的被害がもたらされました。あまりにも自然災害が頻発するので、熊本地震を経験した私でさえ、ふとそれがかなり以前の出来事であったかのような錯覚を覚えます。

でも、まだ2年半が過ぎたところです。熊本地震で被災した文化財の復旧にはまだまだ多くの時間を要すると思われますし、また、復興事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査はまさに今ピークを迎えつつあります。今回は、そうした現状のいくつかを紹介したいと思います。

1. 熊本城跡・阿蘇神社

熊本城跡 熊本城跡（国特別史跡、熊本市）が大きく被災したことは、さまざまに報道されているのでよくご存じのことと思います。その復旧基本方針は2016年12月にいち早く提示され、概ね20年での復旧を目指すこととされています。復旧作業は、復興のシンボルと位置付けられた大天守・小天守から始まりましたが、大天守では今年7月から石垣の積み直しが行われており年末までには完了する見込みとのことです（写真1）。先月には、ラグビーワールドカップの試合がある2019年10月までには大天守の外観の修復を終え、今は立ち入り禁止となっている天守閣前広場から見学できるようにすると発表されました。しかし、今年6月には、地震で傾いていた元太鼓櫓が大雨の影響により新たに倒壊しました。また、崩落したままの石垣や隅石のみで支えられている戌亥櫓（写真2）、整然と並べられたおびただしい数の石垣石材（写真3）などをみるにつけ、完全な復旧までの道のりの困難さを思い知らされます。なお、そうした熊本城跡の現状や復旧過程を見学するための「復興見学ルート」（写真4）が設けられていて、国内外の多くの観光客が足を運んでいます。

阿蘇神社 阿蘇神社（阿蘇市）の楼門（国重文）や拝殿が倒壊したことも、発災当初はよくマスコミに取り上げられました。しかし、その後の報道が少ないため、全国的には現状はほとんど知られていないかもしれません。現在、楼門・拝殿の解体は終了し（写真5・6）、部材補修のための調査が行われています。これに並行し、一・二・三の神殿の部分解体修理および耐震補強工事を実施されています。なお、今後、國造神社（阿蘇市）でも耐震補強工事が行われると聞いています。

2. 古墳

熊本地震では、装飾古墳を含む多くの古墳が被災しました。文化庁・熊本県教育庁による2017年8月のまとめでは、35の古墳・古墳群に被害があったと報告されています。その後、今年になって、塚坊主古墳（国史跡、和水町）の石室も被災していたことが明らかとなりました。

私が知るところでは、現在、釜尾古墳・塚原古墳群（いずれも国史跡、熊本市）、井寺古墳（国史跡、嘉島町）、大野窟古墳（国史跡、氷川町）、永安寺東・西古墳（国史跡、玉名市）で、復旧方法を検討するための委員会が立ち上がっています。まだこれだけかと思われるかもしれませんが、被災古墳の復旧の検討にまで手が回らないというのが実際のところなのではないでしょうか。シートがかけられたまま被災状況の確認さえ行われていない古墳も残されています（写真7）。

城郭の石垣とは異なり、本来古墳は修復されない、あるいは修復されずにきた文化財です。そのため、被災箇所に対して今の私たちがどのように手を下すべきなのかはより慎重に議論する必要があると思います。また、古墳は、築造当初のオリジナルな箇所を多く残しています。破損した石室を修復するためには、被災していない墳丘にも手をつける必要がありますので、石垣の積み直しとはまた別の困難さが伴います。さらに、その石室に装飾があるともなれば、石材環境（温湿度）の管理にも細心の注意を払わねばならず、石室復旧をどのような方法で実施するのか、現状ではまだその手法の検討に大いに頭を悩ませている段階です。熊本城跡の復旧にも匹敵する、ある部分ではそれ以上の困難さや時間を要するものになると思われます。今後、被災古墳にも、よりいっそうの関心をもっていただければと願っています。以下に、いくつかの現状を紹介いたします。



写真6 解体が終了した阿蘇神社の楼門(20180901)



写真7 御船町今城大塚古墳の現状(20170327)